

薬学部新講義棟が完成

崇城大学池田キャンパス(熊本県熊本市)に薬学部の新講義棟が1月に完成し、コロナ禍でも授業が実施されている。講義室には200インチの大型スクリーンが配備され、検温や消毒、二酸化炭素濃度検知器など感染対策も十分だ。新講義棟にはカフェテリア「SAPPHIRE(サファイア)」が併設されており、「食」としてのスペースだけでなく「学習」のスペースでの利用、芸術学部との交流の場としても用いられている。



薬学のシンボルとして勝野教授が製作した「ヒュギエイアの杯」



1月に完成した池田キャンパスの薬学部新講義棟

門柱には「ヒュギエイアの杯」

崇城大学薬学部は2005年に新設薬学部(定員120人)として創設。10周年を迎えた頃から母年の在籍者数が増えたため、定期試験などを実施する際に一つの講義室に全員を収容できず、二つの講義室に分けた実施を余儀なくされていた。

さらに、工学部や情報学部の学生が通うメインキャンパスにはカフェテリアが整備されている一方、離れた場所に立地する薬学部や芸術学部の学生には少なからず不満もあったという。

数年前からこれらの問題を解決するため、薬学部講義棟の増築とカフェテリアの設置を計画した。しかし16年に熊本地震が発生し、メインキャンパスの建物が大きな被害を受けたため、薬学部新講義棟

よりもメインキャンパスの修復が先決とされ、新講義棟の増築の着工が遅れた。

ようやく19年に新講義棟の増築が着工。大学の資金面でも当初の薬学部案からは縮小となり、新型コロナウイルス感染症の影響で工期がずれ、1月にやっと竣工を迎えた。

門柱には同大芸術学部美術学科の勝野真言教授が薬学のシンボルとして製作した「ヒュギエイアの杯」のモニュメントが設置されている。

ヒュギエイアは、ギリシア神話に登場する「医」の神であるアスクレピオスの娘で、健康の維持や衛生を司る女神。海外の薬局では「薬」のシンボルマークとして「ヒュギエイアの杯」が汎用されており、門柱のモニュメントとして採用された。



熊本地震、新型コロナウイルス感染症の影響で、月にやっと竣工を迎えた

前方には200インチの大型スクリーン 140人の試験可能な講義室が三つ



パリアリーの納付設置される講義室の前方には200インチのスクリーン

新型コロナウイルスの感染対策にも留意

新設講義棟はキャンパス内全面
の緑地帯を穿ちながら、既存の
交差点を以て中心として、建
物の配置や緑地帯の配置、
道路の配置など、地域基盤化
に配慮し、建築面積4階建
に2000坪を確保している。

1階（約100坪）は講
義室（約100坪）と学生
センターを兼ねた学生サ
ポートセンターを設け、2
階（約100坪）は講義室
と学生センターを兼ねた
学生サポートセンターを
設け、3階（約100坪）
は講義室と学生センター
を兼ねた学生サポート
センターを設け、4階（
約100坪）は講義室と
学生センターを兼ねた
学生サポートセンターを
設ける。

講義室は、200インチの
大型スクリーンを備え、
前方には200インチの大
型スクリーンを備え、140
人の試験可能な講義室が
三つある。

また、利用上、講義室
学生サポートセンターは、
講義室と学生サポート
センターを兼ねた学生サ
ポートセンターを設け、
講義室と学生サポート
センターを兼ねた学生サ
ポートセンターを設ける。

講義室は、200インチの
大型スクリーンを備え、
前方には200インチの大
型スクリーンを備え、140
人の試験可能な講義室が
三つある。

吹き抜けのカフェは約290席



「1階」のスペースと共有「学生」
もできる吹き抜けのカフェテリア「サファ
イア」



在籍割合が多い女子学生のため、トイレの
数を一定程度増やし、パウダースペースも
設けた





卒業生が寄贈した装着式上腕筋肉注射シミュレータを用いてワクチン接種の技術指導も

大学院目指す人材育成

薬学部講義棟前に循環バスの停留所を設置、芸術学部崇城大学駅前、上熊本駅前などに停車し、学生は無料で乗車できる



旧薬学科棟は「研究棟」に 実験室の拡充・整備も

4台の検温付き消毒器具を
設置し、検温と消毒を義務
づけ



崇城大薬学部では入学定員に近い数の卒業生を輩出し、薬剤師国家試験結果でも一定の成績を収めることを目標にしている。ただ、実務だけではなく、薬学研究（大学院）を目指す人材育成も重要な認識であり、これまで使用していた旧薬学科棟は「研究棟」としてリニューアルしていく予定だ。

今回の講義棟増築工事と合わせて、研究棟にある旧講義室（156席）を拡充工事に伴い、2部屋改修した。工事に伴い、縮小された2部屋は8年生の学習室として利用することになっている。将来的には実験室の拡充・整備を視野に入れている。

新講義棟の増築、旧薬学科棟の改修、カフェテリアと学習室を整備することができた。新講義棟で教員の負担軽減も実現。コロナ禍でも一つの講義室で対面授業や定期試験が実施可能になったことで教員の苦勞は軽減され、試験時の監督者数を半分に減らすことができた。

学生側は新型コロナウイルスの感染拡大が収まってくれば、学内での活動範囲が広がりが、滞在時間も長くなるため、カフェテリアを中心に利用価値が上がり、満足度も高くなると思われている。

将来的には薬剤師が感染防止に社会貢献できるように、学部内の臨床実習で、卒業生が寄贈した装着式上腕筋肉注射シミュレータを用いてワクチン接種の技術指導を計画している。

瀬尾量薬学部長は、「新型コロナウイルス感染症の拡大で工期が遅れたものの、建設中に事故もなく、第1期卒業生の学位記授与式を新講義棟で実施できたのは幸いだった」と述べた上で、「学部として念願だった門柱が完成したことで、やっと大学の学び舎としての品格が備わった感じがする」とコメントしている。